しごとコンビニ事務局

東川町役場

しごとコンビニ
HIGASHIKAWA

作業風景

東川町

官民連携で取り組む「しごとコンビニ」

～業務委託型短時間ワークシェアリング事業～

東川町の現状と課題

東川町は、大雪山を望む田園風景が美しい豊かな自然環境や景観をいかし、写真文化によるまちづくりを推進し、現在は、写真のみならず多様な文化と人の交流による地域の活性化という新たな取組を進めています。また、魅力的な宅地造成や生まれた子どもに手作りの椅子を送る「君の椅子」事業などの特長的な取組により、平成7年から人口が増加に転じ、豊富に湧き出る良質な地下水による暮らし、充実した子育て支援や特色ある教育環境づくりにより、自分らしい豊かな暮らしに共感する人が増え、近隣市町村や首都圏との二拠点生活を目的とした移住者も増えてきています。

東川町では、こうした移住者や外国人も含めた町民ひとりひとりが個性豊かに生き、生涯にわたって活躍できるまちを目指し、2020年に全道で初めて業務委託型短時間ワークシェアリング事業「しごとコンビニ」を導入しました。

この事業を整備することで、単なる人材不足の解消だけではなく、地域に働く環境を生み出し、持続可能な地域経済の確立や、“しごと”を通じて若者から高齢者まで多様な方々の望む生き方の実現を目指しています。

「しごとコンビニ」のしくみ

しごとコンビニは、仕事を依頼する側がしごとコンビニ事務局と業務委託契約を結び、事務局が受託した業務をしごとコンビニに登録した町民に再委託する仕組みとなっています。依頼主と働く町民との間に雇用関係がないため、事前にしごとコンビニ事務局で業務についてヒアリングを行い、業務の手順書を作成し、事前に稼働者が業務の流れややり方を理解した上で業務に臨みます。そのため、依頼する側が採用や研修、労働管理などにかかる手間とコストを軽減することができるほか、町民に稼働してもらう安心感や町民に自分の事業を知ってもらう機会となる効果があります。農作業などの季節的な業務や一時的な軽作業や通年での事務作業などに人手を要する事業者のほか、家事代行、雪かきや草取りなど、生活する上での困りごとや、人に頼み

づらいちょっとしたことを、専門の業者に依頼するよりもリーズナブルな料金設定で依頼することができます。

一方、「しごとコンビニ」で働きたい町民は、メンバー登録を行うことで仕事の情報が配信されるので、自分で仕事を探す手間が省けるほか、面接や履歴書が必要ないことや、稼働場所が自宅から比較的近い業務が多く、通いやすく、働きやすいというメリットが多数あります。また、急な用事や体調不良時におけるメンバー間での交代や、子ども同伴可能な業務など、自分に合った条件の仕事を選んで仕事することができます。また、しごとコンビニ事務局では、事前に体験会の開催や、パソコン講座などの勉強会も実施しており、町民の仕事スキル向上にも取り組んでいます。

どんな仕事があるの？

外仕事
- 公共施設などの清掃
- 農作業 ・雪かき・草取り など…

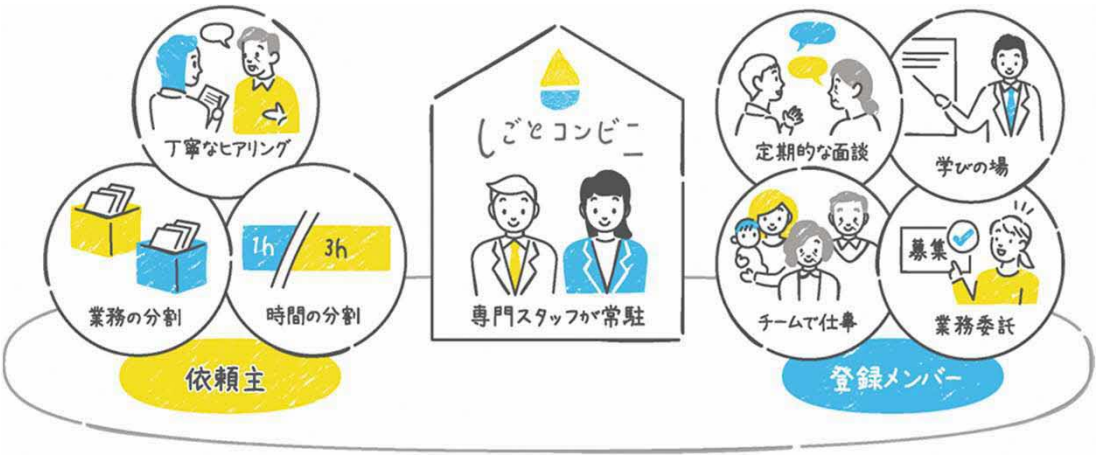
事務
- PC作業・軽作業
- 広報誌の入れ込み・チラシ折り・ラベル貼り・ラミネート加工
- ポスティング・チラシの仕分け
- 宛名印刷・動画制作
- コラム執筆・梱包
- 着付け・通訳など…

事業者の依頼はもちろん、役場や個人からの依頼もあります！

▲イベント設営業務

▲HUCジャンボ宝くじ当選券ポイント付与業務

▲ローズマリーの収穫



「しごとコンビニ」のメリット

「しごとコンビニ」は、子育て中や定年退職後など、フルタイムやパートタイムで働くことに制限があっても「少しだけ働きたい」という町民のニーズと、繁忙期や自分達ではできない作業などを「少しだけ手伝って欲しい」という事業所や個人の依頼主側のニーズを、しごとコンビニ事務局が両者のヒアリングや仕事の細分化を通してマッチングすることで、「働く」を通じて地域と人をつなぐ仕組みです。

雇用契約であるパートやアルバイトと違い、働きたい町民が個人事業主として業務委託契約を結ぶため、仕事をするかしないか、納期の範囲内で働く時間を自由に采配できるため、コンビニのように自分自身で働き方を選ぶことができる一方で、依頼する側も必要な時だけ、少ない手間と経費で人手を確保することができます。

「しごとコンビニ」への期待

東川町では、「しごとコンビニ」を通じて、将来、小さな挑戦から身近な幸せを感じられる町民を増やし、事務局は相談を通して、町と町民を繋げて「やりたい」を叶えられる場所を増やす、そして町内ですべて賄うことのできる「なんでも地産地消できるまち」を目指しています。

令和４年度の稼働者数が８３７名（延べ人数）となっており、９割程度マッチングすることができている状況です。

これまでの事例では、定年退職後に、この「しごとコンビニ」を通じて、地域の人と繋がることができ、地域で働くことで心配していた健康と生活維持を叶えることができたという声や、出産や子育てにより働いた期間にブランクがあった主婦が「しごとコンビニ」を経て働く自信を持ち、その後フルタイムで働けるようになったなど、町民ひとりひとりが個性豊かに生きるための柔軟な働き方の提供につながっています。仕事で「お金を稼ぐこと」以外に「人とのつながりができる」、「自分の望みが叶えられる」など新しい暮らし方や、活躍の機会を提供できることは、東川町の住みよい環境の確保に繋がり、ますます将来に向かって活力ある町になっていくことが期待できるとともに、これからの「しごとコンビニ」に大きな可能性を感じました。

東川町経済振興課
経済振興室　小林室長

しごとコンビニ
事業部　佐原部長

本記事の内容は、東川町企画総務課、経済振興課で担当しております。
東川町の「しごとコンビニ」に関するお問い合わせ先　しごとコンビニ事業部　TEL：0166-73-8737

ミニ特集

「地域の未来を考える」

～道内の高校生・大学生にご意見を伺いました～

道では、人口減少など本道が直面する課題に加え、エネルギー問題や食料・経済の安全保障など、我が国を取り巻く環境の大きな変化に的確に対応していくため、現在の北海道総合計画の計画期間である2025年度を越えて政策を展開していく必要があることから、新たな総合計画を策定することとし、策定に当たっては、道内各地域の住民の皆様などから幅広くご意見を伺いながら、概ね10年後の北海道のめざす姿や具体の政策の方向性などの検討を進めています。

その一環として、次代を担う道内の高校生・大学生にも「地域の未来を考える」をテーマに、グループディスカッションを通して地域の課題やその解決、地域の強みや地域の活性化について話し合っていただきました。

今回は、道内の高校生・大学生の意見聴取の様子を一部ご紹介します。

▶授業の中で、職員から新たな総合計画についての説明を行いました。

◀各班に分かれたディスカッション後、意見を発表しました。

江差高校

檜山地域から、江差高校の2年生の皆さんに10班に分かれて意見をお伺いしました。

【地域の課題】

▼少子高齢化や公共交通機関が少ない。

▼子供の遊び場や子供から大人まで楽しめる施設が少ないなど。

【課題の解決】

▼若者や町外の方向けのイベントを開催。

▼SNSを活用して町をPRする。

▼町を舞台にしたアニメを制作して町を知ってもらう機会を増やすなど。

【地域の強み】

▼古くからの建物が並ぶ町や祭りなどの伝統的な文化がある。

▼自然や海産物が豊富である。

▼小さな規模の町だからこそ、町民どうしの顔が見え、一人一人への支援を手厚くできるのではないか。

【強みをいかす】

▼景観や祭りを楽しむツアーやツーリングの観光ルートを作成する。

▼SNSを通じて町の魅力を伝えていくことが必要ではないか。

岩見沢農業高校

空知地域から、岩見沢農業高校の農業土木工学科2年C組の皆さんに5班に分かれて意見をお伺いしました。

【地域の課題】

▼農家の人手不足。

▼豪雪地帯であるため除排雪が追いつかない、それによる交通障害が起きる。

▼商店街の空店舗が目立つなど。

【課題の解決】

▼農業のICT化を進める。

▼除雪のボランティア活動。

▼商店街を中心としたイベントの開催など。

【地域の強み】

▼札幌から近い。

▼道内各地へのアクセスが比較的良い。

▼遊園地やバラ園、プラネタリウムなどの観光施設がある。

▼音楽イベントなどが多い。

【強みをいかす】

▼SNSでの情報発信。

▼地域イベントを増やす。

▼駅にカフェやショッピングモールを誘致するなど。

釧路公立大学

釧路地域から、釧路公立大学経済学部東准教授のゼミの皆さんに4班に分かれて意見をお伺いしました。

【地域の課題】

▼公共交通機関が不便である。

▼駅前に活気がなく人通りが少ない。

▼若者にとって魅力がないなど。

【課題の解決】

▼公共交通機関の需要調査を行い、交通利用者を確保する取組を進める。

▼企業を誘致して若者にとって魅力的な施設が必要など。

【地域の強み】

▼夏は涼しく雪が少ない。

▼医療施設が充実しているなどの住みやすさ。

▼湿原や夕日などの美しい自然があるなど。

【強みをいかす】

▼夏季の短期移住により暮らしやすさを知ってもらうなど、夏の冷涼な気候をいかす取組を進める。

▼湿原を若者向けに楽しんでもらうための工夫を行うなど。

本記事の内容は、北海道総合政策部計画局計画推進課で担当しております。
〇事業に関するお問い合わせ先　TEL:011-206-6421

なおみちカフェ
Naomichi café

『なおみちカフェ』から

～地域創生のヒントを探る～

２０１８年５月、江別市にオープンした「ゆめちからテラス」。施設内にはベーカリーや野菜直売所があり、連日多くの人で賑わっている。

石狩編

なおみちカフェ

鈴木知事が、北海道創生に向けて、様々な分野で活躍されている方をお訪ねし、その取組や地域への思いなどをお聞きしています。同行した職員から皆様にその様子をお伝えします。

令和5年11月8日訪問 ゆめちからテラス 編

今回ご紹介するのは、江別市郊外にある国産小麦の需要拡大拠点「ゆめちからテラス」です。

ＪＡ道央と敷島製パン株式会社（以下、Pasco）が２０１８年から共同運営するこの施設内には、地元生産者が出店する野菜直売所や地元で生産された小麦「ゆめちから」をはじめチーズやとうもろこしなど道産野菜や乳製品などの素材を使った商品を製造・販売するベーカリー、セントラルキッチンなどがあり、市内外から連日多くの方が訪れ、賑わいを見せています。

この施設開店にあたっては、国産小麦の需要拡大という未来への両者の想いがありました。

「自分たちが作った小麦が最終的にどのような製品に加工されて、それを口にした消費者がどんな反応を見せるのか、生産現場から加工販売まで顔の見える小麦の流通を実現したい」と考えていたＪＡ道央。「国産小麦を使ったパン作りで日本の食料自給率の向上に貢献する」という方針の下、道産小麦を使った焼き立てパンを販売し、店舗の拡大戦略として札幌近郊での立地を模索していたＰａｓｃｏ。その両者の理念と取組が融合し、新たな価値創造へと繋がった場所、それがゆめちからテラスです。市外からも多くの方が訪れるこの場所は、食育の場としての側面もあり、後藤江別市長が「江別の一つの宝物」と誇るほどの場となっています。

ＪＡ道央の今村組合長も「自分達で生産した小麦がパンになって、消費者に喜んでもらえる姿が目に見える。生産者や農協としても大変ありがたい拠点」と語っていました。Ｐａｓｃｏでは、「２０３０年までに自社商品における国産小麦の使用比率を20％まで引き上げる」という目標を掲げており、「ゆめちからテラス」は、国産小麦の需要拡大という両者の想いの発信基地として、現在も、そしてこれからも、みんなの「ゆめ」が叶い、「ちから」が得られる場所として、歩みを進めていきます。

▲焼き立てパンの豊かな香りが広がるPasco夢パン工房
▼道産小麦をふんだんに使った焼きたてパン

当日の知事の言葉から

本道が食料安全保障上の貢献をしていく中で、農家の皆さんが安定的に生産できる体制を整えながら国内消費を促す取組は、地域や国にとって極めて重要です。

道産小麦を調達して、商品を作り、さらに地域で消費するという理想的な取組であり、その想いを多くの皆さんに知っていただきながら、こうした活動がさらに進むよう道としても後押しをしていきたいと思います。

多くの人で賑わう
のっぽろ野菜直売所▶

なおみちカフェ（江別市）の動画はこちらからご覧いただけます。
（YouTubeチャンネル）